

[成果情報名]イチゴ新品種「こいのか」の主要病害発生特性

[要約]イチゴ新品種「こいのか」は、炭疽病によって萎凋枯死しやすく、炭疽病に対しては、「さちのか」とほぼ同程度で、「とよのか」に比べて弱い。疫病には「とよのか」と同等の強さである。葉のうどんこ病には「さちのか」や「とよのか」より強く、果実はほぼ同等である。萎黄病には、これら2品種とほぼ同等である。輪斑病には、「さちのか」よりやや強く、「とよのか」と同等である。

[キーワード]イチゴ、こいのか、炭疽病、疫病、うどんこ病、萎黄病、輪斑病

[担当]農林技術開発センター・環境研究部門・病害虫研究室、
農産園芸研究部門・野菜研究室

[連絡先](代表)0957-26-3330

[区分]野菜（生産環境）

[分類]指導

[背景・ねらい]

長崎県のイチゴ主要栽培品種「さちのか」は、果実の着色性や棚持ち性などに優れているが、炭疽病に弱く、ハダニ類が発生しやすいなどの欠点があり、大きな生産不安定要因の一つになっている。そのため、本県は独立行政法人九州沖縄農業研究センターと連携して、次世代の新たな品種として花芽分化の安定性や果実の品質等に優れる「こいのか」を育成し普及を図っている。

そこで、新品種「こいのか」について、本県で発生する主要病害の発生特性を既存品種「さちのか」や「とよのか」、「さがほのか」と比較しながら明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. イチゴ新品種「こいのか」は、炭疽病 (*Glomerella cingulate*) による萎凋枯死株率が極めて高く、炭疽病に対しては、「さちのか」とほぼ同程度で、「とよのか」に比べて弱い(図1)。しかし、「こいのか」は「さちのか」や「とよのか」に比べて、葉に汚斑状斑点を形成しにくい(データ略)。
2. 疫病 (*Phytophthora nicotianae*) には、「とよのか」と同等の強さで、「さがほのか」より極めて強い(図2)。
3. うどんこ病による葉の発病に対しては、「さちのか」より強く、「とよのか」に比べてかなり強い(図3)が、果実は「さちのか」や「とよのか」とほぼ同等である(図4)。
4. 萎黄病には、「さちのか」や「とよのか」と同等である(図5)。
5. 輪斑病には、「さちのか」よりやや強く、「とよのか」と同等である(図6)。

[成果の活用面・留意点]

1. 「こいのか」は、炭疽病に対して「さちのか」と同程度に極めて弱い傾向にあるので、栽培管理に当たっては親株管理から育苗期、本圃期までの全期間、細心の注意と十分な防除対策を講じる必要がある。

[具体的データ]

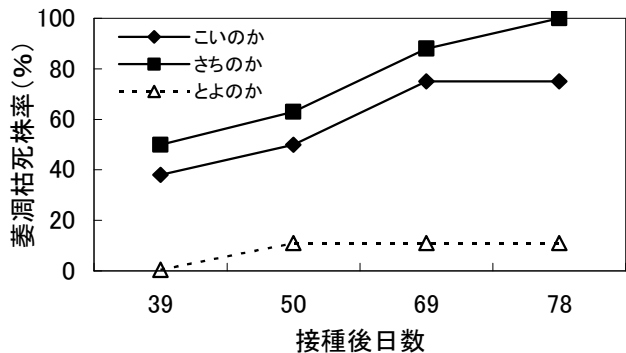


図1. 炭疽病:イチゴ各品種苗への菌接種による発病の推移(2004年8月30日接種)

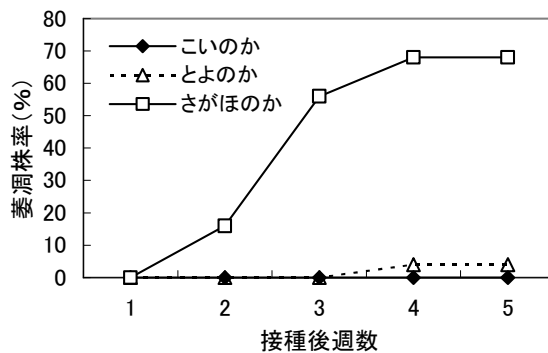


図2. 疫病:イチゴ各品種への菌接種による発病の推移(2007年8月10日接種)

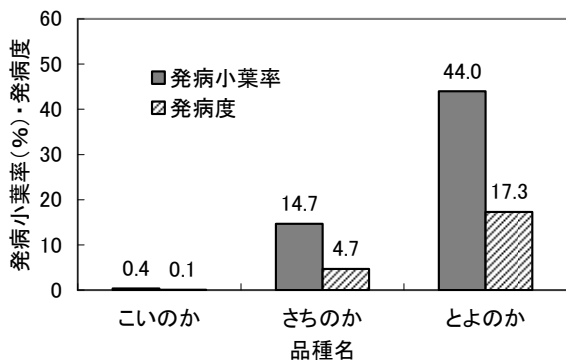


図3. うどんこ病(子苗):イチゴ各品種の育苗中における発病比較(2008年7月14日調査)

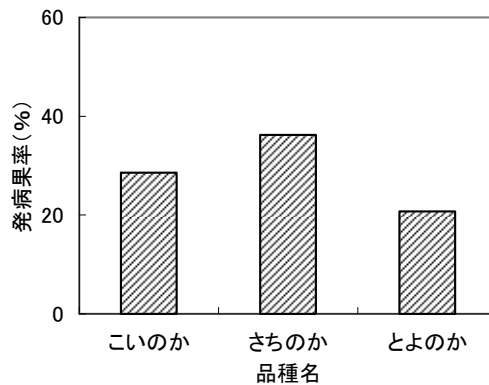


図4. うどんこ病(果実):イチゴ各品種の本圃自然発病条件下における発病比較(2008年12月18日~2009年2月27日調査)

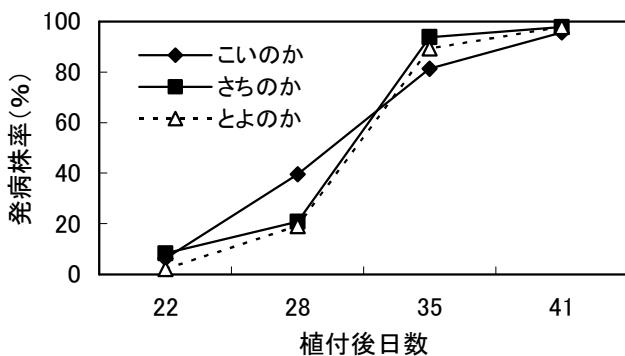


図5. 萎黄病:イチゴ各品種苗の汚染土植付による発病の推移(2008年7月15日植付)

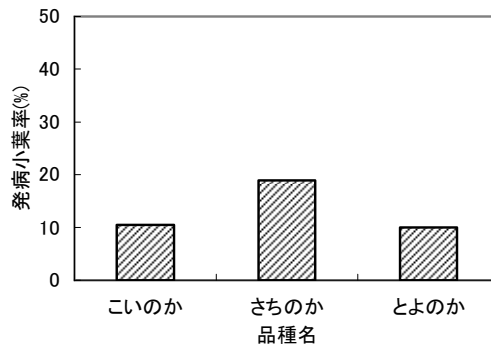


図6. 輪斑病:イチゴ各品種の育苗中における発病比較(2008年8月25日調査)

[その他]

研究課題名: 農業生産現場への緊急技術支援プロジェクト研究
 予算区分: 県単
 研究期間: 2002年度~
 研究担当者: 難波信行、内川敬介、松尾和敏